

宗教教育の必要性に関する考察

— 福祉専門職を目指す学生の宗教観から —

Consideration about the Necessity of the Religious Education — From Outlook on Religion of the Student to be a Welfare Specialist —

福田 輝 久
Teruhisa FUKUDA

社会福祉士、介護福祉士、保育士の資格取得を目指す学生に対して、宗教観に関するアンケート調査を行った。その結果から、学生が宗教に対してどのような考えを持っているのか、また、これまで宗教に関してどのような体験をしてきたのかなどを把握することを通して、福祉専門職を目指す学生に対する宗教教育の必要性について検討した。現在は、宗教について学校教育の中でふれる機会は決して多くないことや、日本人全体の中に宗教に対するマイナスイメージが強い状況も見られるため、宗教教育を行にくい環境にあるのではと考えられる。しかし、今回の調査結果から福祉専門職を目指す学生に対して宗教教育を行うことの必要性または可能性について見出すことができたのではと感じている。

キーワード：宗教観、宗教教育、福祉教育、福祉専門職

1. はじめに

国内外を問わず福祉実践の歴史を見てみると、その時代の宗教や宗教家らが持つ宗教観とその活動には深い関係があることが窺える。(例：行基・重源らによる社会事業、片山潜・長谷川良信らによるセツルメント活動など)しかし、福祉専門職を目指す学生は、これらの内容を福祉の概論として学ぶことはあっても、それぞれの宗教や宗教家らのどのような考えにもとづいた実践なのかを詳しく学ぶことは少ない。また、現在の日本の教育現場においては宗教教育を公に行うことがほとんどないことや、日本人は宗教を信仰する割合が諸外国と比較すると低いなど、宗教に関する意識が低い状況も見られる。

これらのことから、特に対人援助の専門職を目指す学生にあっては、福祉実践と宗教が密接な関係を持つことをより深く理解するためにも、宗教全般について学ぶ機会を設けることも必要なのではと考える。

本研究では、社会福祉士、介護福祉士、保育士の資格取得を目指す学生に対して、宗教観に関するアンケート調査を実施した。その結果から、福祉専門職を目指す学生に対して福祉の理論・技術などの福祉教育とあわせて、より人間性豊かな専門職者として活躍できるよう宗教教育を行うことの必要性について考察する。

2. 方法

(1) 調査内容と対象者

私が専任教員として勤務する専門学校において介護福祉士や保育士の資格取得を目指す学生、また非常勤講師として勤務する大学において社会福祉士の資格取得を目

指す学生を対象に、宗教観に関するアンケート調査(資料)を実施し、73名から回答を得た。

(2) 調査方法と倫理的配慮

対象者である学生とは、それぞれの授業で関わることから、私の授業時間内にて無記名式質問紙を配布し、授業時間内で回収した。また、調査前には研究目的や研究結果をどのように活かしていくのかについて口頭にて説明し、協力を依頼した。あわせて、この調査は無記名でありプライバシーが守られることや、回答にあたっては各個人の差支えがない範囲でよいことを伝えた。

3. 結果

(1) 基本属性

回答者73名の基本属性は、次のとおりである。

・性別：男性	11名	女性	62名	
・年齢：18～20歳	32名	21～30歳	33名	
	31～40歳	2名	41～50歳	4名
	51～60歳	1名	無回答	1名

・目指す取得資格：社会福祉士	6名
介護福祉士	24名
保育士	43名

(2) 信仰の有無

「現在、信仰している宗教はあるか」の問いに、「ある」と回答したのは18名(25%)であるのに対し、「ない」と回答したのは55名(75%)であった。また、「ある」と回

答した学生のうち、「信仰している宗教は何か」を尋ねたところ、4名(21%)が「わからない(知らない)」と回答した。

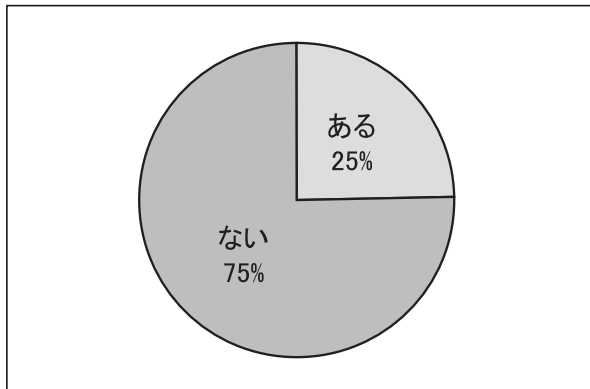


図1 信仰している宗教の有無

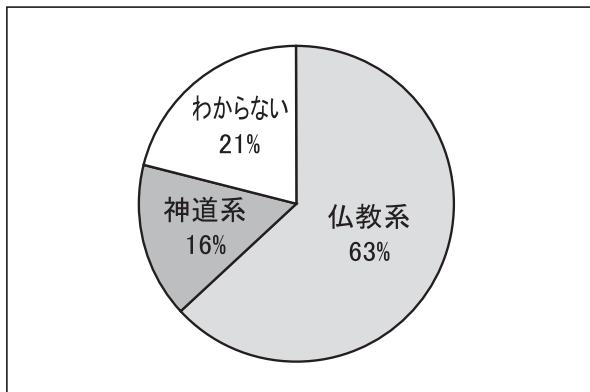


図2 信仰している宗教

(3) 仏壇・神棚の有無と祖父母との同居の有無

自宅の仏壇や神棚の有無については、「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生のうち、13名(72%)が「自宅に仏壇や神棚がある」と回答した。また、「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生のうち、27名(49%)が「自宅に仏壇や神棚がない」と回答した。

祖父母との同居の有無については、「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生のうち、3名(17%)が「同居している」と回答した。また、「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生のうち、35名(64%)が「同居していない」と回答した。

表1 仏壇や神棚の有無

	信仰している宗教がある	信仰している宗教がない
仏壇や神棚がある	13 (72%)	28 (51%)
仏壇や神棚がない	5 (18%)	27 (49%)

表2 祖父母との同居の有無

	信仰している宗教がある	信仰している宗教がない
祖父母と同居している	3 (17%)	20 (36%)
祖父母と同居していない	15 (83%)	35 (64%)

(4) 信仰している理由

「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生に対して、その理由を尋ねたところ、最も多い理由は、「自分が生まれたときから家族が信仰しているから」の12名(48%)であった。

次に多い理由として4名(16%)が「信仰することで自分に良いことが起こると思うから」と回答した。

少数ではあるが、「心をおだやかに生きていくために必要だから」が1名(4%)、「命を大切にすることができるから」が2名(8%)であった。

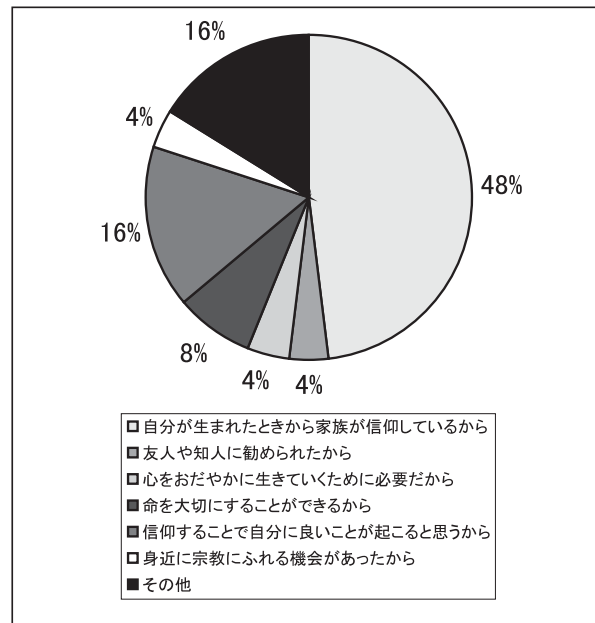


図3 信仰している理由

さらに、「その他」と回答した4名(16%)について自由記述を求めたところ、次のような回答を得た。

- ・人はひとりではないと実感できるから
- ・先祖が神様になって守ってくれるらしい
- ・神頼み的なことをして心を楽しみたいときがあるから
- ・父が神主だから

(5) 信仰していない理由

「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生に対して、その理由を尋ねたところ、最も多い理由は、「家族も特に信仰していないから」の32名(25%)であった。次に多い回答として、「信仰しなくても困ることがないから」が30名(23%)であった。以下、多い回答順にみると、「宗教に頼らなくても生きていけるから」が23名(18%)、「身近に宗教にふれる機会がなかったから」が13名(10%)、「信仰に熱心な友人や知人がいないから」「宗教に対するイメージがよくないから」がともに12名(9%)であった。

さらに、「その他」と回答した7名(5%)について自由記述を求めたところ、次のような回答を得た。

- ・宗教についてあまり深く考えたことがない
- ・興味がない
- ・よくわからない
- ・面倒だから
- ・日本では宗教に関する熱心な教育がされず、また一部の偏った宗教の暴動などで、宗教本来のものを知ることがないためだと思う。特に信仰しようという機会があるのかなのか…。あるとしても、その誘いが熱心すぎて逆に信じられないため

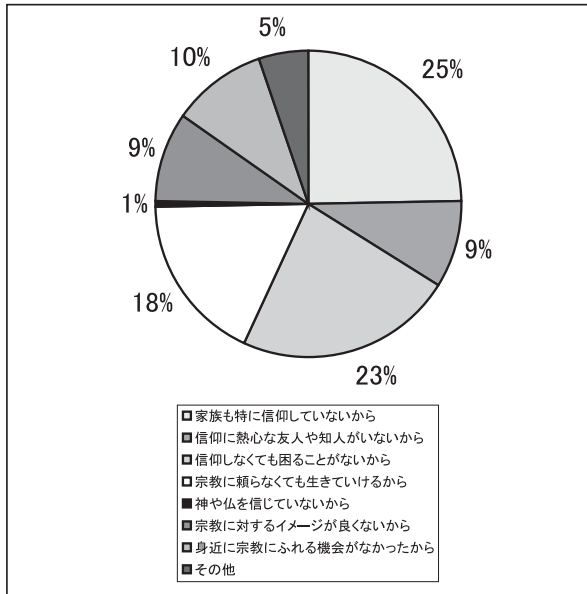


図4 信仰していない理由

(6) 宗教に対する考え方

「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生に対して、「宗教に対する今後の考え方」について尋ねたところ、「今後も必要ない」が17名(31%)、「今後には必要になるかも」が6名(11%)、「わからない」が31名(56%)であった。

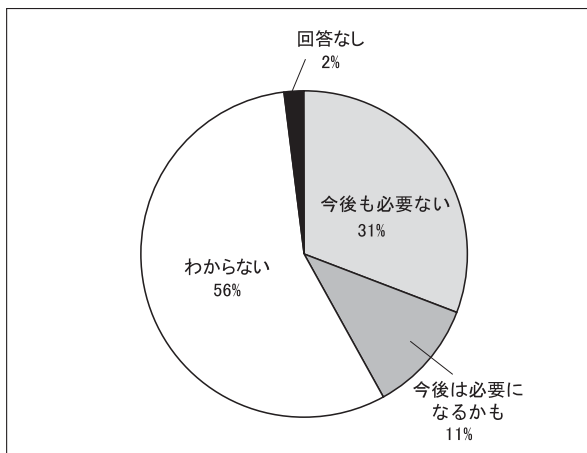


図5 宗教に対する考え方

(7) 宗教系の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・短大に通った経験の有無

これまでに、宗教系の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・短大に通った(または現在通っている)経験の有無について尋ねたところ、「ある」と回答した学生が25名(34%)、「ない」と回答した学生が48名(66%)であった。

また、「ある」と回答した学生のうち、どのようなところに通っていたのか(または現在通っているのか)を尋ねたところ、最も多かったのが「仏教系の幼稚園」で10名(34%)であった。

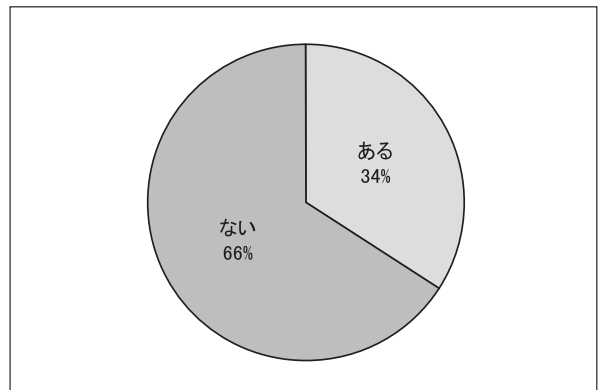


図6 宗教系の園・学校等に通っていた(通っている)か

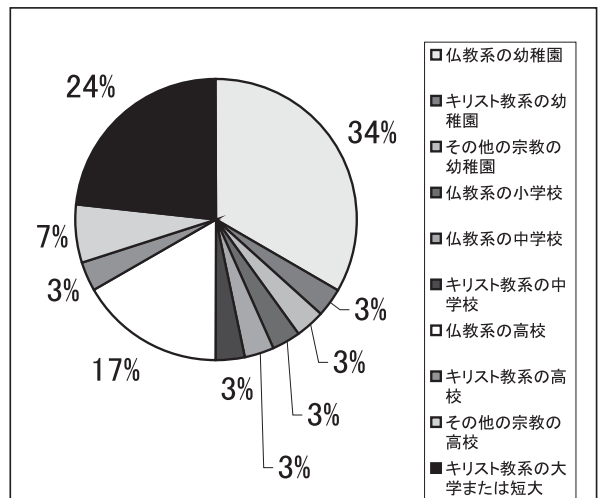


図7 通っていた(通っている)宗教系の園・学校等

(8) 宗教系の園や学校での生活から受けた影響

「宗教系の園や学校に通ったことがある(または現在通っている)」と回答した学生については、「それらの園や学校での生活を通して、自身にどのような影響を与えたと思うか」について尋ねたところ、次のような結果となった。

- ・宗教に関する知識や理解を深めることができた 4名(12%)
- ・人にやさしくできるようになった 2名(6%)
- ・福祉や保育の仕事につきたいと考えるきっかけとなった

- た 2名(6%)
- ・宗教に対して良いイメージを持つことができた 2名(6%)
- ・命の尊さに気づくことができた 2名(6%)
- ・生きていくための指針となった 1名(3%)
- ・人は自分ひとりでは生きていけないと感じた 1名(3%)
- ・神や仏に自分は守られていると感じた 2名(6%)
- ・特に影響を与えたとは思わない 9名(28%)
- ・わからない 4名(12%)
- ・その他 3名(9%)

※内1名からは自由記述として「お経を覚えた」との回答を得た

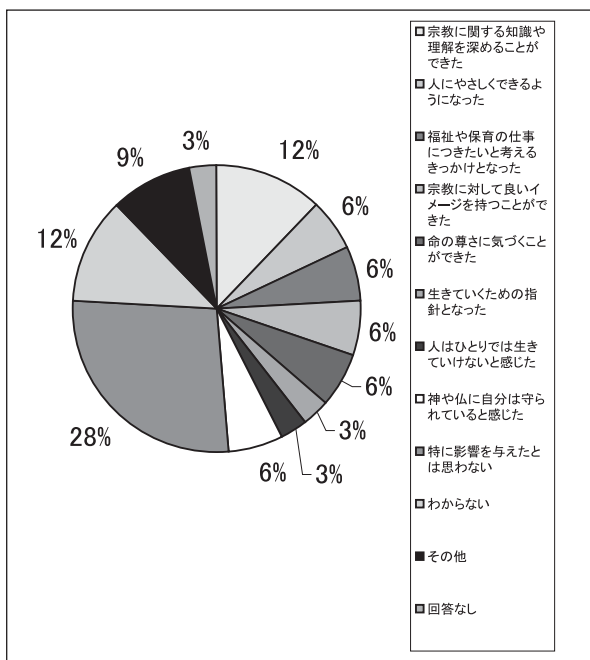


図8 どのような影響を受けたか

(9) 地域社会における宗教行事への参加の有無

「地域社会において宗教行事に参加したことがあるか」の問いに対して、調査対象者73名中、「ある」と回答した学生が10名(14%)、「ない」と回答した学生が44名(60%)、「地域社会の中で宗教行事が行われなかった」が7名(10%)であった。

また、「ある」と回答した学生について、「どのような行事だったか」を尋ねたところ、次のような回答を得た。

- ・神社のはだか祭り
- ・氏神様の大神祭に巫女として参加した
- ・地域のキリスト教の集会(子どもの頃)
- ・教会の日曜学校のようなもの
- ・キリスト教の礼拝、バザー
- ・お寺で念仏を称えた
- ・ラジオ体操の前にお経を読み、坐禅を組んだ
- ・ごちそうを食べたり、踊ったりした
- ・正月の神社への参拝

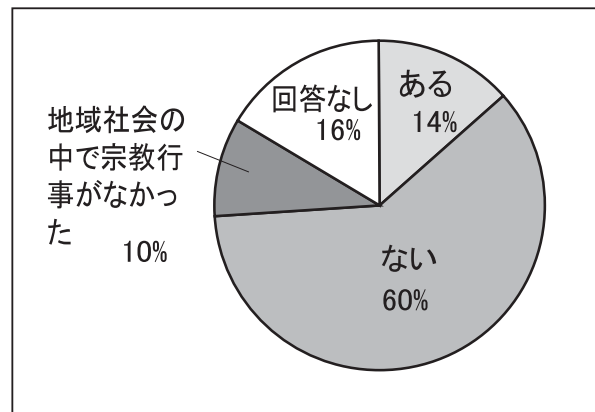


図9 地域社会の中で宗教行事があったか

(10) 宗教に対するイメージ

「宗教に対してどのようなイメージを持っているか」について自由記述で尋ねたところ、次のような回答を得た。

- 「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生
 - ・考え方、生き方はそれぞれであり、強制でなければよい
 - ・面倒くさい
 - ・戦争の引き金、心の拠り所
 - ・人が心を豊かにし、文化をつくる上で必要不可欠なもの
 - ・困っている人の弱みにつけ込んで勧誘したり、お金を取ったりしている。金儲け主義
 - ・苦しいときの精神的な救い
 - ・特に何も思わない
 - ・祈れば力をくれるもの
 - ・深入りしないほうがよい
 - ・自由だが、危ないものもある
- 「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生
 - ・特に何も思わない
 - ・かたいイメージ
 - ・昔のこと
 - ・とにかくイメージが悪い(強引な勧誘を受けて嫌な思いをさせられたことがある)
 - ・よくわからない
 - ・各宗教ごとに孤立したイメージ
 - ・自分の中だけの神様があればいいと思っている
 - ・生活とはあまり関わりがないもの
 - ・別世界のように感じる
 - ・よい宗教もあるが、よいイメージを持たない宗教もある
 - ・興味が無い
 - ・信じたい人がいればそれは個々のことであり関係ない
 - ・決まりが多く、難しそうなイメージ
 - ・他国では断食や肉が食べられないなどがあり、不思議でもあり面倒にも感じる

- ・実習園では、子どもに強制的なイメージだった
- ・少し怖いイメージ
- ・うそっぽい
- ・あやしい、変な感じ
- ・特に関わらなくていいもの
- ・何かにすがらないと生きていけない
- ・人それぞれが自分の考えにそったものを信仰している
- ・お金を集める、死の間際に急に信仰心が芽生える
- ・仏教やキリスト教などのメジャーな宗教はよいイメージがある
- ・困ったときの神頼み
- ・かたよりのある教えにはのめりこむことができない

(11) 福祉専門職を目指す動機と信仰心との関係

「福祉専門職を目指す動機と自身の信仰心には関係があると思うか」の問いに対して、「思う」と回答した学生が6名(8%)、「思わない」と回答した学生が54名(74%)であった。また、「現在、信仰している宗教がある」と回答した18名のうち、16名が「福祉専門職を目指す動機と信仰心には関係がない」とも回答している。

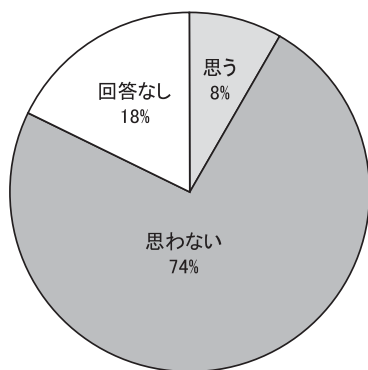


図10 福祉専門職を目指す動機と信仰心に関する関係

4. 考察

(1) 信仰の有無と生活環境

「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生は18名(25%)であったが、これは、日本人の信仰している割合が3割弱であることとほぼ同じ結果となった。また、アメリカで行われた同様の調査によると、信仰を持っている人が9割強であり、日本人は諸外国と比べると、宗教を信仰する割合が低いことが表れており、しかも、福祉専門職を目指す学生においても同様であることが窺える。

次に、福祉専門職を目指す学生が信仰心を持ちやすい生活環境にあるのかについて、仏壇や神棚の有無と祖父母との同居の有無をもとに調べてみた。「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生のうち、13名(72%)が「自宅に仏壇や神棚がある」と回答し、「信仰している

宗教がない」と回答した学生のうち、27名(49%)が「自宅に仏壇や神棚がない」と回答した。この結果から、信仰する宗教を持つための生活環境として、自宅の仏壇・神棚の有無が関連していることが窺える。これは、自宅に仏壇や神棚があることにより、日常的に家庭内において宗教を身近に感じることができていたのではと考える。(例：毎日お花や仏飯などを供える・毎朝手を合わせるなど)

しかし、若年層よりも信仰心が強いと思われる祖父母との同居の有無については、「現在、信仰している宗教がある・ない」のどちらも、祖父母と同居していない割合の方が高く、その関連をはっきり窺うことができなかった。これは、祖父母と同居していても、家庭内で学生との関わりが少ない状況にあたり、今回の調査対象者の年齢構成について10代から30代が最も多いため、祖父母といえども比較的年齢が若く、特に強い信仰心を持っていないことも考えられるため、それが影響しているのではとも思われる。

(2) 信仰の有無とその理由

「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生について、その理由として最も多かったのが、「自分が生まれたときから家族が信仰しているから」であった。(12名：48%) また、「友人や知人に勧められたから」と回答した学生が1名(4%) あったが、両者の回答を合わせると、自らすすんで信仰する宗教を持つのではなく、周囲の人間に合わせて、受身的に信仰心を持つ学生が多いことが窺える。その他の回答項目として、「人として成長できるから」、「人にやさしくなれるから」もあったが、この2つに回答した学生はいなかった。これは、自らの人間としての成長や他者との人間関係づくりに必要なものとして積極的に信仰することが少ないことを意味すると思われる。だが、「その他」と回答した学生のうちのひとりが、「人はひとりではないと実感できるから」と自由記述の中で回答しており、信仰を通して人間は他者との関係の中で生きているという意識を持つ学生も少数ながらいることも窺える。

「現在、信仰している宗教がない」と回答した学生について、その理由として最も多かったのが、「家族も特に信仰していないから」(32名：25%)であった。「信仰に熱心な友人や知人がいないから」(12名：9%)、「身近に宗教にふれる機会がなかったから」(13名：10%)と合わせてみると、前述した信仰の有無と生活環境と同様に、学生にとって自身の日常生活や友人関係の中で、どれだけ宗教を身近に感じることができるかが信仰の有無に影響を与えるのではと考える。これについては、「地域社会において、宗教に関する行事に参加したことがあるか」の問いに対して、6割の学生が「参加したことがない」と回答していることから窺うことができる。また、その他の理由として、「信仰しなくても困る

ことがないから」(30名:23%)「宗教に頼らなくても生きていけるから」(23名:18%)と回答した学生も多いが、自分自身にとって宗教が有益なものかどうか、より関心があることの表れではないかと考える。さらに、「その他」と回答した学生の自由記述の中に、「宗教についてあまり深く考えたことがない」、「興味がない」、「面倒だから」の記述も見られ、宗教に対してはっきりしたイメージを持ちにくい状況が今の社会にはあることも窺える。また、「日本では宗教に関する熱心な教育がされず、また一部の偏った宗教の暴動などで、宗教本来のものを知ることがないためだと思う」との記述もあり、宗教教育の必要性については認識しているものの、一部のカルト的な宗教による活動に抵抗感を持つ学生が少なくない状況にあることも窺える。

以上のことを踏まえると、福祉専門職を目指す学生の意識の中に宗教は大きな部分を占めないこと、つまり、宗教が本来持つ人間としての成長を促す力や、社会で生きていく上での倫理観について、宗教を通して日常生活の中で考えることが少ないことがわかる。これは、実生活の中で信仰する宗教を持つか、持たないかによるところが大きいのと思われるが、あわせて現在の公教育の中で宗教教育がほとんど行われないことも原因のひとつではないかと考える。しかし、前述した、「人はひとりではないと実感できるから」と回答した学生が少なからずいたことは事実であり、これに着目してみたい。

例えば、私たちは日常生活の中で「縁起」という言葉を使うことがあるが、これは「因縁生起」を略したものである。もとは仏教の根本思想の言葉で、原因と縁(条件)が関わりあうことで、すべての物事が起こるという考え方である。長谷川(2002)は、ソーシャルワーカーとクライアントの関係について、縁起の言葉を用いて次のように述べている。

いっさいの存在はさまざまな原因と条件によって生じるとする考え方、これが縁起の思想です。つまり単独で成り立つものではなく、すべてが関わり合いによって成り立つ(関係的存在)と説く。このことはまた、自己は他者との関係のなかで成り立つ存在であることを意味し、その関係性の自覚がソーシャルワーカーの質を規定することになるだろうと私は思います。¹⁾

このように、仏教の根本思想の中にも福祉専門職として常に意識しなければならない自己と他者との関係性が表されているのである。福祉専門職を目指す学生は、通常の福祉教育と合わせてこのような宗教に関しても学ぶことで、福祉と宗教には相通ずる部分があることが理解でき、より専門職に必要な姿勢や価値観を身につけることができるようになるのではと考える。

(3) 宗教系の園・学校への通園・通学経験の有無

宗教系の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大

学・短大に通った(または現在通っている)経験の有無について尋ねたところ、「ある」と回答した学生が25名(34%)であった。また、「ある」と回答した学生のうち、どのようなところに通っていたのか(または現在通っているのか)を尋ねたところ、最も多かったのが「仏教系の幼稚園」で10名(34%)であった。根本(1996)は、仏教保育の取り組みについて、「この大切な幼児期に、人として最も大切な心の育ちを願い、仏教保育の目標としている「生命を大切に子ども」に育っていくことをめざし、日々の保育に取り組んでいる。」²⁾と述べているように、人生の早い時期に宗教系の園や学校に通うことで、その後の本人の宗教観や価値観に影響を与えることが考えられる。今回の調査においても、「宗教系の園や学校に通ったことがある(または現在通っている)」と回答した学生について、「それらの園や学校での生活を通して、自身にどのような影響を与えたと思うか」について尋ねたところ、「宗教に関する知識や理解を深めることができた」と4名(12%)が回答している。これは、園や学校内で行われる宗教行事を通して身近に宗教にふれることができ、しかも、保育や授業を通してそれらが行われるため、ごく自然に宗教に関する知識や理解が深められたのではと考える。また、「福祉や保育の仕事につきたいと考えるきっかけとなった」と2名(6%)が回答しており、宗教系の園・学校での学びや経験が学生本人にとって、その後の福祉専門職を目指すきっかけにつながっていることも窺える。さらに、「人にやさしくできるようになった」(2名:6%)、「命の尊さに気づくことができた」(2名:6%)、「人は自分ひとりでは生きていけないと感じた」(1名:3%)との結果も得られたが、これらの項目は、福祉専門職に求められる姿勢や考え方もあり、ここからも園や学校での学び・経験と、これらの意識が芽生えたこととの関連性が窺える。

前述の根本(1996)は、「心は、私たちが毎日の生活の中で、目でみたり耳で聞いた事や、舌で味わった経験がその人の心を形成すると言う。」⁴⁾と述べているように、上記の回答をした学生については、人生の早い段階で宗教について身近にふれる環境があったことにより、福祉専門職に必要な姿勢や価値観を体験的に学べたのではないかと考える。

(4) 宗教に対するイメージ

宗教に対するイメージについて自由記述にて回答を求めたが、マイナスイメージの記述が多く見られた。特に、「現在、信仰している宗教がある」と回答した学生の中にも、「困っている人の弱みにつけ込んで勧誘したり、お金を取ったりしている。金儲け主義」、「深入りしないほうがよい」、「自由だが、危ないものもある」という記述が見られる。鈴木(1994)は、高校生が持つ宗教のイメージについて、「まず「宗教」と言っただけでも昨今のテレビ等での興味本位の報道からして、よいイメージの

持てないのが正直なところである。」³⁾と述べている。公教育を受けてきた福祉専門職を目指す学生についても同様のことがいえるのではと思われる。つまり、一部の宗教団体による過剰な活動等について、様々なメディアを通して知ることはできても、宗教本来の教えや歴史、宗教観などについて学ぶ機会はほとんどないということである。これについては、公教育において宗教に関する授業を行うことが難しい状況が今の日本には見受けられるためであろう。

例えば、教育基本法では宗教教育について次のように規定されている。

第9条第1項「宗教に関する寛容の態度及び宗教の社会生活における地位は、教育上これを尊重しなければならない」

この規定から、法律上では宗教教育を行うことについて全く否定されているのではなく、むしろ教育上尊重されるべきものであるとの考えが示されていると受け取れる。しかし、同条第2項では次のようにも規定されている。

第9条第2項「国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない」

これは、公立学校においては特定の宗教を取り上げて教育してはならないと述べているが、逆にとらえると特定の宗教について教授するのではなければ、公立学校においても宗教教育を行える可能性があるということでもあろう。だが、実際に公立学校において宗教教育が行われにくいことについて、川井(1998)は、「現在の日本では「宗教教育」と言うものに対し、独特の感情があるように思われる。それは戦前の軍国主義による歪められた宗教教育によるところが大きいと思う。」⁵⁾と述べている。つまり、第2次世界大戦中に国民統制を図るために宗教が用いられたことが、現代において宗教教育を実践するにあたりマイナス要因として働いているのではと考えられる。

以上から、公立学校においても宗教教育が行えるような環境を整えることが、メディアからの情報に頼りがちな学生の宗教に対するマイナスイメージを払拭し、正しい宗教に関する知識や宗教観を学ぶ機会を得る方法ではないかと考える。

(5) 福祉専門職を目指す動機と信仰心との関連

「福祉専門職を目指す動機と自身の信仰心には関係があると思うか」との問いに対して、「思わない」と回答した学生が7割を超えた。同時に、「現在、信仰している宗教がある」と回答した18名のうち、16名が、「思わない」と回答している。この調査においては、福祉専門職を目指す動機と信仰心の有無との関連性は低いと思われる。つまり、信仰心を持つことのみで福祉専門職を目指す動機にはつながりにくいということであろう。しか

し、宗教系の園・学校への通園・通学経験がある学生については、体験的に宗教について学ぶ機会があったことが、その後の福祉専門職に必要な意識の芽生えや、福祉を目指す動機につながったと思われる結果も今回の調査からは見受けられる。このことから、宗教に身近にふれる環境や学習の機会を設けることが福祉専門職を目指す学生にとって有益なのではと考える。

5. まとめ

私たちが知る国内外の福祉の歴史から見ても、その当時の宗教家らが自身の信仰心や宗教観をもとに福祉実践に取り組んできたことは、まぎれもない事実である。よって、福祉専門職を目指す学生に対して、これらの内容を社会福祉の概論としてだけでなく、より深く理解するために宗教教育を行うことの必要性については理解が得られやすいのではないかと考える。また、今回のアンケート調査結果の考察を通して、福祉専門職を目指す学生が身近に宗教を感じることができ環境を整え、その上で体験的に学ぶことで、専門職を目指す更なる動機につながることや、専門職が持ち合わすべき価値観・姿勢をも身につけることができる可能性を窺うことができた。これらのことから、福祉教育とあわせて宗教教育を行うことの必要性を示すことができたのではと考える。

ただし、実際の教育場面において、どのように宗教教育を活用すればよいのかについての方法論が確立できていない状況にあると思われるため、これについては今後の課題としたい。

<参考文献・参考資料>

- ・ 國學院大學研究開発機構 『日本人の宗教意識・神観に関する世論調査』 2003
- ・ 中外日報社 『日本人の宗教観 I』
<http://www.chugainippoh.co.jp/NEWSWEB/n-taidan/nihonjin/nihon01/nihon01.html>
- ・ 菅原伸郎 『宗教の教科書12週』トランスビュー 2005 p 212

<引用文献>

- 1) 長谷川匡俊 『宗教福祉論』 医歯薬出版 2002 p 88
- 2) 根本しず枝 『仏教系幼稚園の卒園児の宗教観について』 日本仏教教育学研究 第4号 1996 p 156
- 3) 鈴木一男 『宗教心を尊重する教育』 日本仏教教育学研究 第2号 1994 p 36
- 4) 前掲2)
- 5) 川井すみれ 『公立高校における宗教の扱い方ー社会科を中心としてー』 日本仏教教育学研究 第6号 1998 p 154

(資料)

福祉専門職を目指す学生の 「宗教観」に関するアンケート

◎下記のアンケートにご協力をお願いいたします。

※あてはまるものに○を、または()内に記入をお願いいたします。

※このアンケートの結果につきましては、研究目的以外では使用いたしません。

- (性別) ・男性 ・女性
(年齢) ・18～20歳 ・21～30歳
・31～40歳 ・41～50歳
・51～60歳
(目指す取得資格) ・社会福祉士 ・介護福祉士
・保育士

1. あなたが現在、信仰している宗教はありますか。
・ある → Aの質問へ ・ない → Bの質問へ

A. 「ある」とお答えの方にお尋ねします。

①あなたが信仰している宗教はどれですか。

- ・仏教系 ・キリスト教系 ・神道系
・その他()
・わからない(知らない)

※「その他」を選択した方は差支えがなければその宗教名をご記入ください

②あなたの家には仏壇や神棚がありますか。

- ・ある ・ない

③あなたは祖父母と同居していますか。

- ・している ・していない

④あなたがその宗教を信仰している理由は次のうちのどれですか。(複数回答可)

- ・自分が生まれたときから家族が信仰しているから
・友人や知人に勧められたから
・人として成長できるから
・宗教に頼らないと生きていけないときがあるから
・心をおだやかに生きていくために必要だから
・人にやさしくなれるから
・命を大切にすることができるから
・信仰することで自分に良いことが起こると思うから
・身近に宗教にふれる機会があったから
(どんなことでしたか:)
・その他()

B. 「ない」とお答えの方にお尋ねします。

①あなたが信仰しない理由は次のうちのどれですか。(複数回答可)

- ・家族も特に信仰していないから
・信仰に熱心な友人や知人がいないから
・信仰しなくても困ることがないから
・宗教に頼らなくても生きていけるから
・神や仏を信じていないから
・宗教に対するイメージが良くないから
・身近に宗教にふれる機会がなかったから
・その他()

②あなたの家には仏壇や神棚がありますか。

- ・ある ・ない

③あなたは祖父母と同居していますか。

- ・している ・していない

④あなたの宗教に関する考えは次のうちのどれですか。

- ・今後も必要ない ・今後は必要になるかも
・わからない

2. あなたは宗教系の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学等に通っていたことがありますか。(または現在通っていますか)

- ・ある → Cの質問へ ・ない

C. 「ある」とお答えの方にお尋ねします。

①通っていたのは次のうちのどれですか。(複数回答可)

- ・仏教系の保育園 ・キリスト教系の保育園
・その他の宗教の保育園
・仏教系の幼稚園 ・キリスト教系の幼稚園
・その他の宗教の幼稚園
・仏教系の小学校 ・キリスト教系の小学校
・その他の宗教の小学校
・仏教系の中学校 ・キリスト教系の中学校
・その他の宗教の中学校
・仏教系の高校 ・キリスト教系の高校
・その他の宗教の高校
・仏教系の大学または短大 ・キリスト教系の大学または短大
・その他の宗教の大学または短大

②①の園や学校での生活は、あなたにとってどのような影響を与えたと思いますか。(複数回答可)

- ・宗教に関する知識や理解を深めることができた
・人にやさしくできるようになった

- ・福祉や保育の仕事につきたいと考えるきっかけとなった
- ・宗教に対して良いイメージを持つことができた
- ・命の尊さに気付くことができた
- ・自然にその宗教を信仰することができた
- ・生きていくための指針となった
- ・人は自分ひとりでは生きていけないと感じた
- ・神や仏に自分は守られていると感じた
- ・特に影響を与えたとは思わない
- ・わからない
- ・その他()

3. あなたが住んでいる(住んでいた)地域社会において、宗教に関する行事に参加したことがありますか。

- ・ある(どんな行事でしたか:)
- ・ない
- ・地域社会の中で宗教に関する行事が行われなかった

4. あなたは宗教に対してどのようなイメージを持っていますか。()

5. あなたが福祉専門職をめざす動機と、あなたの信仰心には関係があると思いますか。

- ・思う
- ・思わない

ご協力ありがとうございました。